

地震 津波 原発崩壊から 1 年

組合員のみなさん 国労・ユニオン組合員のみなさん

目を覆ってしまうほどの非情な自然の力と、人間の愚かさとの力のなさを強烈に付きつけられた東日本大震災から 1 年です。皆さんはこの 1 年、何を思いましたか。

私たち J R 東海労は復興のため現地へ直接 水 を届け、また義援金の取り組みをしました。そして、連合と J R 総連の呼びかけで現地にも行きました。しかし、がれきの中に立ったものの、何から手を付けたら良いのかさえも分からない程の惨状で、ここでも自然の力と人間の力の差をまざまざと見せつけられました。

残念ながら、国としての復興の具体的な進路が見えていないのが今の状態です。国会での議論は「政権」を意識したおしゃべりにのみ時間を費やしています。遠くへ避難された皆さんを含めて、被災された皆さんは、元の所、生まれ育った所に住みたいと言っています。しかしその想いを断ち切っているのは、国会でのおしゃべりと、住民不在の復興計画と福島第一原発事故による放射能の拡散と汚染のなかの生活と子供たちの未来への不安です。何一つ解決されていません。

福島第一原発事故を契機にして、脱原発の声が大きくなってきています。市民運動も大きなひろがりを見せています。私たちも、労働組合として地震、津波、福島第一原発崩壊から 1 年たった今、あらためて脱原発を強く訴え、もっと声を大きくして、反原発を実現して行かなければなりません。

3 月 3 日に、川崎市で「東京湾の原子炉を考えるシンポジウム」がありました。「東京湾の原子炉」とはアメリカ原子力艦船のことです。福島からシンポジウムに参加した方の「人殺し（戦争）のための物が、平和（原発）のために役立つわけがない」と言う発言は、聞く者をととても説得する力がありました。

一方、最近のマスコミによる特集では、米軍の協力や自衛隊の活動記録が多すぎると感じざるを得ません。この背景には「米軍や自衛隊の活躍」を強く打ち出して脱原発の声の広がりを抑え込もうということと、声高に言われている「憲法改正」があります。実情に合うように憲法改正をする必要があると言われてはいますが、その大きな目的の一つに「9 条の改悪」があります。9 条は戦争放棄のための大事な条項です。この 9 条を改悪して自衛隊を戦争のための部隊にしようというのです。戦争のための部隊を、平和活動（復興活動）に貢献、と称賛するだけではダメです。

地震、津波、原発崩壊から 1 年の今こそ、反原発と戦争反対の意思を表しましょう！